

2019年2月24日

## 福音書からのメッセージ

人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

(ルカによる福音書 6章 31節)

敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切に  
しなさい。とても厳しい言葉です。敵、あ  
なたを憎む者、この言葉を聞いてパツと思  
いつく相手はいるでしょうか。そして敵を  
愛しなさいと言われたときに、なんて難し  
い要求をされるのだろうかと思うことで  
しょう。そもそも敵と思う人とは、関わる  
ことすら嫌なはずです。ですからその人を  
愛するには、まず関わりを持つところから  
スタートしなければならないのです。

さらに、イエス様はこう言われます。悪  
口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮  
辱する者のために祈りなさいと。悪口を言  
うとは呪う、そして侮辱するとは虐待する  
というのが本来の意味です。敵を愛し、憎  
む者に親切にし、呪うものを祝福し、虐待  
する者のために祈る。本当に憎まれ、呪わ  
れ、虐待されているときにこのイエス様の  
言葉を聞いたとしたら、どう思うでしょ  
うか。そうだ、親切にしよう、祝福しよう、  
祈ろう、そんな風に思えるのでしょうか。

わたしたちは敵を愛しなさいと言われ  
ると、愛さなければいけないって思う。そ  
して虐待する者のために祈りなさいって  
言われると、それはとても辛いし難しいこ  
とだけれども、できたらいいねって思う。  
でもそのときに、自分自身がいつも愛する  
方だ、祈る方だという目線で物事を考えて  
いることにも気づかされます。

わたしたちは敵対していた人に愛され  
たことはなかっただろうか。わたしたちは  
憎んでいた人から親切にされたことはな  
かっただろうか。わたしたちは人を呪って  
いたのに、その人から祝福を祈られたこ  
とはなかっただろうか。わたしたちは虐待し



ていたにもかかわら  
ず、祈ってもらって  
いたことはなかっ  
ただろうか。

愛する前に、愛さ  
れていることに気づ  
く。祈る前に祈られ  
ていることに気がつ  
く。先日ある集まり

でこの話をしていたときに、一人の子ども  
がこんなことを言いました。「敵って、今  
まで誰かほかの人のことだと思っていた  
けど、僕は自分も敵じゃないかなって思う。  
神さまによく背くし、イエス様を十字架に  
つけたし、そうやって僕は神さまの敵にな  
ってしまっているのだと思う」。

正直びっくりしましたし、心がブルブル  
と震えました。確かにそうだ、そう思いま  
した。わたしたちは何度も神さまを裏切り、  
神さまが悲しむことをしてきました。だか  
ら神さまから見たら、わたしたちは神さま  
の敵でしかないのです。

わたしたちは何度、神さまを憎んできた  
でしょうか。呪ってきたでしょうか。でも神さ  
まはわたしたちに対して、たくさんの愛を  
与えてくれています。そして大切な独り子  
であるイエス様を与えてくれたのです。

その憐れみがあるから、わたしたちも敵  
を愛する者になれたらと思えるのです。こ  
んなわたしを愛してくださる方がおられ  
るから、少しでも近づきたい。做って生き  
ていきたい。そのように歩んでいけたらと  
思います。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>